

2016年10月号

横須賀小川町教会新聞No.133
2016年10月1日発行

小川町の鐘

発行者 日本キリスト教団
横須賀小川町教会
牧師 寺田信一
住所 横須賀市小川町7
電話 046-822-2463
http://ogawachurch.sakura.ne.jp

第28回

澤田美喜～二千人の孤児の母～

牧師 寺田信一

三菱財閥を創立した岩崎彌太郎の孫・美喜は、東京の本郷に生まれ、何不自由ない生活をして育ちました。しかし、御茶ノ水女子高等師範学校付属の幼稚園から中学部に進む途中、百日咳に罹ってしまいます。そのために大磯の別荘で休養していると、美喜の病室の隣部屋に寝ていた看護婦が、聖書を朗読しているのが聴こえてきました、「なんじの敵を愛せよ」(マタ5.44)と。この言葉に美喜は感動し、「どうしても聖書を読みたい! 教会に行きたい!」と思立ちます。けれども岩崎家は代々真言宗。友人の聖書を借りて読んでいと祖母に厳しく叱責されました。その後も何度か聖書を手に入れる美喜でしたが、その度に風呂釜の薪と一緒に火に焼べられてしまい、さめざめと涙するばかりでした。

そんな美喜が21歳になった時、外交官であった澤田廉三との縁談が起こります。この澤田の家族がクリスチャンホームだと知るやいなや、美喜は結婚を決意します。それは大手を振って教会に通えるからでした。すぐに明治学院の礼拝堂で挙式、そしてメソジスト教会で洗礼を受けます。その後4人の子を授かり、外交官の妻として各国を夫と一緒に渡り歩きました。1931年から2年間ほどイギリスにいた時に国教会(聖公会)に転籍しますが、美喜の教会生活は熱心なままでした。

このイギリス滞在中、美喜に転機が訪れます。ドクター・バーナードス・ホームという児童養護施設を訪問し、強い衝撃を受けるのです。当時の日本の施設には無い教会や学校もあり、子ども達はみな明るく生活していたからです。美喜はそこで初めて、お金で買えない幸せがあることを知ったのです。ところが、帰国した美喜が見た日本は悲惨でした。第二次世界大戦後に駐留していた米兵と日本人女性との間に生まれた混血児たちが、生活苦か当時の世間体を思った結果か、川や沼、トイレに無惨に捨てられているのです。急増した混血孤児たちの多

くが父も知らず、母にも見捨てられている子どもたちでした。ある日、満員列車に乗っていると、網棚から美喜の前に紙包みが落ちてきます。それは黒い



肌の嬰兒の遺体でした。美喜の頭に血がのぼり、心臓は激しく高鳴ります。その時、美喜は心の耳で神さまの静かな御声を聞き取る

のでした、「もしお前が、たとえいつときでも、この子の母とされたのなら、なぜ、日本中のこうした子どもたちのために、その母になってやれないのか」と。この時から3日間、美喜は祈り続けます。その間、あのドクター・バーナードス・ホームの記憶が何度もよみがえりました。そして、美喜は夫廉三の理解も得、自分の余生をこの仕事にささげる決心をします。「日本にはいま大勢の祝福されない混血孤児がいる。そうだ、私はこの子らの母になる...必ず日本に明るい子どもたちのホームを実現させよう」と。こうして美喜は立ち上がり、多額の寄付を集めます。そしてついに大磯に、遺産を寄付してくれたイギリス人の名をとって「エリザベスサンダースホーム」を設立しました。美喜はここで32年間働き、二千人以上の孤児たちを育て上げたのでした。

現在、このホームの敷地内に「澤田美喜記念館」がありますが(1階は展示室で奥に納骨堂。2階は礼拝堂)、このホームを巣立った幾人もの人々が海外からであっても必ず、まずここに立ち寄るそうです。そして納骨堂の前で祈りをささげ、再会した仲間たちと共に、自分たちの“ママちゃま”(美喜)との思い出(叱られ自慢?)を語り合うそうです。家族を家族足らしめるのは血縁ではなく、神の愛と選びなのでしょう。



教会フェスタ2015
11/3 (木) 10:00~14:00
 「ようこそ お祭り気分の教会へ」
 教会フェスタはどなたでも入場できる“お祭り”です。ぜひお越しください。

- ◇販売 日用品・雑貨・手作り工芸品・手芸品
・クリスマスリース・カレンダー・手帳・カード など
- ◇食堂・食品 焼きそば・カレーライス・おしるこ
・飲み物 ・コーヒー・焼き鳥 など
- ◇子どもコーナー 教会学校教師・生徒・保護者
によるコーナー ・子ども用品・ゲーム ほか
- ◇特別企画 教会員によるアコーディオン演奏

ごあんない
教会学校礼拝
 毎週日曜日午前九時、子どもの礼拝
 があります。礼拝後、幼小科・中高科・
 成人科に分かれて分級が行われます。
主日礼拝
 毎週日曜日、午前10時30分
 説教 寺田信一牧師
特別説教礼拝
 一〇月九日(日)午前10時半
 説教 私の目を開けてくれた方
 江口勝利神学生

教会にはエレベーターが設置されています。また、身障者用トイレも整備されています。視覚障害の方には、点字聖書が用意されています。